

肝胆膵高難度外科手術 [Web 動画付] 第 3 版

宮崎 勝

日本肝胆膵外科学会名誉理事長/国際医療福祉大三田病院名誉病院長/千葉大名誉教授・臓器制御外科

日本肝胆膵外科学会が認定する高度技能専門医制度におけるその取得は、外科手術の実技面を重視した専門医制度として 2011 年に発足した専門医制度であり、またわが国において当時手術実技を重視し判定するといった専門医制度として初のものであり、多くの外科領域の医師に注目されたものであった。その後、内視鏡外科学会等でも同様の試みの制度が追随されるようになった。当時、肝胆膵外科手術は術後の致死率が決して他の外科手術の中でも低いとは言えず、手術リスクは高いものとして考えられていた。そのため日本肝胆膵外科学会は、手術を受ける方々にそのリスクを知ってもらうとともに、安心して高難度肝胆膵外科手術を受けていただくべく認定施設制度（A 施設と B 施設認定）を設け、それを広く公表したのである。それは患者さんに資する情報を提供したいと考えた上でのことであった。その際、施設のみでなく、確実に高難度外科手術を施行し得る外科医の育成およびその認定についても、併せて開始したというわけである。したがって、旧来の専門医制度に比べるとその専門医に合格するのには極めて高いハードルが設けられており、

その分受験する医師にとっては、大変な苦労や努力を要すると言える。結果、取得した専門医には高いプライドおよび責任が与えられることになっている。2011 年スタート時にはわずか 12 名の合格者であったが、その後徐々に受験者および合格者が増加してきている。しかしながら、ここ数年来の 2020 年代に入っても合格率はほぼ 50% 前後という狭き門ではある。ちなみに 2022 年の合格者は 93 名となっている。

ぜひ肝胆膵外科をめざす若い外科医にはまずしっかりと高難度手術手技を勉強し、実地手術を指導医の元で行い十分修練した上で専門医資格申請に臨んでいただきたい。今回発刊された『肝胆膵高難度外科手術 第 3 版』は日本肝胆膵外科学会の編集により現状で活躍している肝胆膵外科医のエキスパートらが、若い外科医向けに精魂を込めての解説書として発刊されたものである。今回の第 3 版では、6 章に分かれているうちの 1 章には腹腔鏡下およびロボット支援下の肝胆膵外科手術の項目も加えられている。よくある手術手技の解説書とは異なり、手術の実践における事細かにおよび注意点についても記載があり、ある意味では専門

医試験の審査員らの目線がどのようなポイントで審査されているかをうかがい知ることにもなる。もちろん実際の手術時のピットホールに陥ることのないように、といった指導医としてのアドバイス、さらには大きな合併症に繋がらないよう回避すべき術中のポイントなどが散りばめられた内容になっており、臨場感あふれる手術手技の解説書となっている。これから専門医試験を受ける若い外科医の方々は、これらの手術手技を熟読した上で自身の経験する手術を毎回、振り返って反省し、少しずつ成長し、高難度肝胆膵外科手術を安心してこなせるような真の専門医の外科医として成長して行ってもらいたいと願っている。また、すでに専門医を取得した外科医および指導医の先生方にも、一読いただきご自身の高難度外科手術の手技を絶えず skill-up させて、より多くの患者さんの治療にさらに貢献していただけるように、本書を利用していただけたら幸いである。

●B5/頁 384/2023 年 06 月

定価：12,100 円

（本体 11,000 円＋税 10%）

[ISBN978-4-260-05111-8]

医学書院 刊